
打出の小槌

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

打出の小槌

【コード】

N3005I

【作者名】

タケノコ

【あらすじ】

お金を出す打出の小槌。それを使って楽しむゲーリー氏だったが……

(前書き)

最後にオチがくるショートショートです。時間があるときにとどろろぞ
!

ここは、ある大富豪宅の一室。

白衣を来た男が打出の小槌をテーブルの上で振っていた。

するとどうだろう。小槌から高額紙幣が山ほど飛び出したではないか。

「こんなに、良い物をただでくれるというのか？」

そう言ったのは、大金持ちのゲリー氏である。

「ええ、そうです。今まで私の研究に出資してくださった御礼です」
しかしといぶかしの資産家は詰問する。

「なぜ、君が使わんのだ？わしには、それが理解できん」

待ってましたといった表情の白衣の男。

「大丈夫ですよ。予備はいくつもありますので」

・
・
「これなら、ただ同然だし、世界旅行でも楽しもうか」

・
・
「次は、別荘を世界中に五十個程買おう！結局無料だしな」

・
・
ゲリー氏はこの国きつての資産家でありながら至上最高の儉約家であったためこの事態は異例中の異例だった。

「フム。次は世界一でかいダイヤだな！」

ゲリー氏が自室で次のお金の使い道を考えていたとき夫人が駆け込んで来た。

「あ、あなた！！大変なのよ。おろしてないのに通帳の残高がものすごく減っているの！！！」

「減っている額は、まるで、世界旅行して、世界各地に五十個程別荘を買ったくらいよ」

冷や汗を流し出すゲリー氏は残りの資産はいくらか尋ねた。

「そつね、世界一でかいダイヤを買えばなくなるくらいね」

・
・
「ここは、政府機関の一つで国民の消費拡大を目標とする部署。

「課長！上手くいっているみたいですね。『資産家の消費拡大計画』は！」

課長と呼ばれた男は会話を返す。

「つむ、打出の小槌は、全部で千個ある。これでこの国が潤う
すべては、政策の一つであった。」

「おしまい」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3005i/>

打出の小槌

2011年1月11日03時00分発行